

日本看護歴史學會 會報

日本看護
歴史学会
第77号
2022年1月15日

年頭所感

日本看護歴史学会理事長 丸山マサ美



令和4（2022）年、新しい年の幕開け、本学会会員の皆さまは、新型コロナウイルス感染症の中、毎日の暮らしと共に試行錯誤の遠隔講義・実習等、教育に研究に、また臨床場面において、新たな方策を立て取り組んでおられる事と存じます。第35回学術集会は、本学会初のオンデマンド・ライブ配信開催でしたが、成功裡に幕を閉じました。また、通常総会は、書面会議により、3議案をご承認（学会ホームページをご参照下さい）いただきました。会員の皆さまのご理解とご協力に感謝を申し上げます。With/Post コロナ時代の本学会には、若手会員の入会や学会報告等、明るい未来の希望を感じております。皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げますと共に、更なるご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

第35回学術集会を終えて

第35回学術集会長 渡部 尚子

第35回学術集会は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて本学会初のWeb開催となりました。メインテーマを「看護高等教育の源流を探る ―過去をとらえ未来へつなぐ看護史・自校史の仕事―」とし、会期は2021年8月16日～9月10日をオンデマンド配信、中間の8月28日にライブ配信による講演と意見交換の場を設けました。会期中の総アクセス数1,900余。参加者は会員・非会員合わせて190名。一般演題は口演3題、示説7題、誌上6題、コロナ禍のために研究が進まず発表は次年度にという連絡も数人受けました。

今回のWeb開催で経験した利点と改善点を反映しつつ、学術集会が今後も直接意見を交わす得難い場として一層活発になることを祈念します。最後に、会員の皆様のご参加と理事会のご支援に感謝申し上げます。



ライブ配信：丸山マサ美座長による
会長講演紹介シーン

第35回学術集会に参加して

理事 刀根 洋子

今期学会は8月28日～9月10日の間ライブとオンデマンドでおこなわれた。一番のメリットは、会長講演をはじめ講演、交流セッション、研究発表まで全てを視聴できたことだ。テーマは「看護高等教育の源流を探る」であったが、会長講演や教育講演を通して、看護教育の大学化までの道のり、教育行政や職能団体の役割について知ることができた。過去の学術集会35回のうち8回は看護教育史を取り上げている。1994年第8回の「教育の歴史を振り返る」に始まり「戦後教育の検証」「看護教育と実践」などを経て、今回の「高等教育の源流」に繋いだ。大正時代の聖路加看護専門学校では、教育程度の高い女子を募り、病院を組織できる人を育てるという時代こそ違え今に連なる目標を掲げていた。現在300校になろうとする看護系大学であるが、それぞれがミッション・ステイトメントの下、自校史を刻んでいる。歴史を創っていくことを意識したいと思った講演だった。

第36回日本看護歴史学会学術集会のご案内

健康科学における看護科学の発展 —東大看護の歴史から—

会 期：2022年8月26日（金）・27日（土）

会 場：東京大学山上会館

会 長：矢野 正子（聖マリア学院大学名誉学長・元東京大学教授）

1 参加へのお誘い

2021年11月新型コロナ新変異株の発見で先行きが見透せませんが、第36回日本看護歴史学会学術集会はオンライン参加を含めたハイブリッド方式により開催する予定です。

今回の大会のテーマは「健康科学における看護科学の発展—東大看護の歴史から—」としました。そこでまず、東大看護の歴史について、その概要と学会のねらいについてご説明します。東大看護とは帝国大学医科大学附属第一医院で看病法講習に始まる看護を指し、東大医学部の看護も含めたものです。大学教育としての東大看護学教育は東京大学医学部衛生看護学科に始まる看護学教育のことです。

2 東大での看護の芽生え

東大病院の起源は安政5年（1858）に開設されたお玉ヶ池種痘所とされ、後にこれは医学所となりました。戊辰戦争が始まった明治元年（1868）10月に、日本で最初に看病婦人が働いていた横浜病院が東京へ移転し、これが医学所と合併して大病院となり、その後の東大病院の医療・医学・看護の歴史に繋がっていきます。その中で官立における近代看護婦教育は東大で最初に開始されました。明治20年（1887）10月、帝国大学医科大学附属第一医院で看病法講習規則が作られ、当時来日していたナイチンゲール看護学校卒業生M. Agnesvetchが教育を一年間担当し、桜井女学校附属看護婦養成所から大関和・鈴木雅子ら6名と病院から選ばれた者22名、計28名が1年間学び第1回生となりました。明治23年（1890）5月には医科大学産科学教室に産婆養成所が開設されました。その後、東京大学医学部附属看護学校・東京大学医学部附属助産婦学校となりました。平成14年（2002）3月には共に閉校となりましたが、それぞれ110余年の歴史があります。

3 東大看護学教育の歴史

東京大学医学部衛生看護学科が誕生したのは今から70年前、昭和28年（1953）4月で、戦後の大学での看護教育としては昭和27年の県立高知女子大学家政学部看護学科に次いで

2番目です。東大看護が開設されたいきさつについて述べてみます。昭和27年当時、東大医学部附属病院は本郷の本院と小石川の分院（平成13年本院と統合・閉院後、東京大学インター



矢野正子学術集会会長

ナショナルビルレッジ開設）の二つの病院におのおの看護学校を持っていました。しかし文部省は、予算編成に当り二つの看護学校は要らないと東大に伝えました。当時の分院長であった三沢敬義教授が教授会に諮り、その結果、分院の看護学校は廃止とするが、その代わりに外国に多々あるような四年制の看護大学を試しに作ってみてはどうだろうかとなりました。そこで文部省に、分院の看護学校は廃止する一方で4年制の看護学科を作る気はないかと提案しました。すると当時の文部省大学課長が、それは面白い、努力してみましよう、ということになり、予算と組織が認められ、翌昭和28年4月に東京大学医学部衛生看護学科が誕生しました。

4 東大看護学教育の創設当時

最初に学科主任になられた生理学教室の福田邦三教授は、『伝統ある古い大学に女子のみ入学させるという違和感、目上・目下の関係が支配している中で、将来看護学博士が出現するのを想像するのは一般人の常識として無理……。しかし、この学科を作り上げることを任された者としては、0歳の愛児を前に無経験の母親としてできることは、愛と乳であった。』と述べられています。（昭和59.看護「昭和看護界出来事誌」）もう一人、昭和29年4月に聖路加女子短期大学から東大に招かれた湯楨ます助教授は、『看護には学問がないと、失望して反抗していた学生たちの姿を私は忘れようありません。何故かときかれ何も答

えないまま、私はここに踏みとどまっていたはいけない、と迷ったりしました。けれども、私が何もないことをさらけ出していたために、やがて卒業していく学生たちは「看護とは」を求める姿勢を持ち続け、少数とは言え、今日の看護の力になるように尽くすことができていると思いたいのです。』(昭和63.「グロウイング・ペイン」)

5 現在までの道のり

その後、衛生看護学科は保健学科となり女子のみの入学を改正し、昭和40年からは駒場の教養学部で男女ともに進路を選択し保健学科に進学するようになりました。また、保健学科の中に複数の専攻科ができ、看護は選択制になりました。学科名は平成4年には健康科学・看護学科と変更され、平成22年には健康総合科学科に再々度変更され現在に至っています。このように健康と保健を学科の大きなコンセプトとして、看護学または看護科学は学科名に見えたり隠れたりしながらも看護学教室あるいは講座として看護学教育と看護学研究を継続し、発展させてきました。

6 今回の学術集会が意図する将来の看護学

今回の学術集会において、東大で看護を学んだ者として、看護をどう捉え自分の研究・教育・実践などにおいて活かしてきたかを振り返ってみます。これからも看護を担い追求する方々のお話から、ご参加の皆様が看護の過去・現在・未来を考え、検討し考察し、新しい学問を見出していく機会になっていただければ幸いに思います。

具体的なプログラムとして、大会長講演はテーマ「健康科学における看護科学の発展—東大看護の歴史から—」とし、それに関連して、パート(1):「東大看護コースの特性と卒業後のワークライフ(仮題)」を、昭和28年4月看護教育開始以来70年について俯瞰してみます。同じくテーマとの関連で、パート(2):記念講演「東大病院及び医学部附属看護学校・医学部附属助産婦学校の歴史(仮題)」を、東大病院看護部長小見山智恵子氏にご担当していただくことを予定しております。

7 学術集会の詳細と今後の広報予定

教育講演・特別講演では、卒業された方々が、政治・行政・教育・実践・研究などの世界でどんな看護の歴史を作ってこられたのか、いろんな努力があったと思いますが、それを踏まえて「—東大看護の歴史から—」の視点

をまとめ、将来展望を含めながら発表していただきます。

詳細につきましては日本看護歴史学会第36回学術集会ホームページ

<http://plaza.umin.ac.jp/~jsnh36>

に順次公開していきますので、ご確認願います。

8 演題・参加登録などの現時点概要

これから詳細が決まり次第逐次発表しますが、現時点では次のとおりです。学術集会ホームページをご確認の上、手続き等をお願いします。

◆一般演題：口演、示説

演題登録：2022年3月1日(火)～5月27日(金)までに演題登録・抄録提出。6月17日(金)までに発表の可否を通知します。

- ・発表は看護の歴史に関する研究とします。
- ・会場開催の場合、
口演は発表時間15分、質疑応答5分
示説は発表時間10分、質疑応答5分の予定です。

- ・登録は学術集会ホームページから行います。
- ・演者は、共同研究者も含めて本学会の会員とします。演題登録に際し、入会を希望される方は、日本看護歴史学会ホームページにアクセスして、登録締切日〔2022年5月27日〕までに入会申し込みをお済ませください。(2021年度に会員である必要はありません)。

◆参加登録：2022年3月1日(火)～6月24日(金)まで

会場参加者(100名程度)は、原則として事前登録者となります。

◆参加費及び支払い方法：

参加費	会員	非会員	学生
事前申込	7,000円	8,000円	—
当日受付	8,000円	9,000円	500円

事前申込学生はリモート参加のみ
事前受付の支払方法は郵便振込のみでお願いします。

◆日本看護歴史学会第36回学術集会事務局

〒271-8558 千葉県松戸市岩瀬550

聖徳大学看護学部日下研究室内

TEL :047-365-1111 (大学代表)

Email :jnsnhc36-gakkai@umin.ac.jp(学会専用)

著書紹介 看護歴史ライブラリー第2巻

『看護技術の教育史—占領期の看護技術教育—』看護の科学社、2020年

金沢医科大学看護学部 滝内 隆子

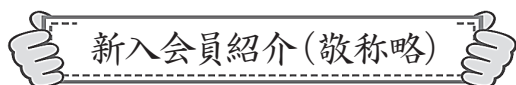
本書は、現在の看護技術教育のスタートである占領期に焦点をあて、看護教育指導者講習会や看護基礎教育で使用された看護技術のテキストを史料として、教育された看護技術項目と具体的な内容、教育方法を分析した結果を紹介しています。また、その分析結果を検証するために占領期に看護技術を教育した教員と教育を受けた学生にインタビューした結果も紹介しました。本書が看護基礎教育ならびに看護継続教育で看護技術教育に携わる多くの方々に、高い看護技術力を習得していた先人たちが受けた看護技術教育への理解と、新たな看護技術教育を考える材料になることを期待しています。

DVD紹介『アニメでわかる看護の歴史/医療倫理の歴史』丸善出版、2021年

本作は、看護・医療倫理の歴史の起源から現在、そして未来を学生が目線から捉えアニメで紹介しています。第1巻『看護の歴史』は、第1章：「看護の起源から職業としての確立」、第2章：「日本の看護の歩み」「第3章：ひろがる看護、これからの看護から」を解説。また第2巻『医療倫理の歴史』は、「医の倫理の始まり～研究倫理～」から「インフォームドコンセントの歴史」などを紹介しています。本作が、「看護・医学の本質」を再考し、21世紀を創る専門家教育・研究の一助となれば幸いです。

丸善ホームページで検索して下さい。

【監修】第1巻：金井一薫（徳島文理大学）佐々木秀美（広島文化学園大学）平尾眞智子（健康科学大学）
第2巻：木村利人（早稲田大学）【総監修】丸山マサ美（九州大学）



*（ ）内は会員番号 2021年6月～12月入会

善生まり子 (21010)	星野 瑞穂 (21011)
藤原 浩子 (21012)	中村 友紀 (21013)
清水 由佳 (21014)	



■事務局から

2021年度会員動向(2021年6月～12月現在)

1. 会員数	302名
2. 入会者	5名
3. 退会者	4名

(1名ご逝去)

■35周年記念誌企画委員会よりお願い

35周年記念誌企画委員会では、記念誌作成に向けて活動しております。35年間の活動をまとめるにあたって、学術集会時の様子などの貴重な写真を掲載させていただきたいと考えております。写真には、会員の皆様が写っている場合もあります。35周年記念誌へのお写真の掲載を拒否されたい場合は、35th-aniv@jsnh.jp までご連絡をいただきたいと思いますと考えております。ご連絡

がない場合は、包括的に合意されたものとして写真を使わせていただきます。

35周年記念誌企画委員会 田中幸子

編集後記

矢野正子先生の東京大学における看護教育の歴史をとっても興味深く拝読しました。学術集会がとても楽しみです。(か)

日本看護歴史学会会報 第77号

企画・編集 川原由佳里（日本赤十字看護大学）
黒田 裕子（大阪府助産師会産後ケアセンター）

発行責任者 丸山マサ美（事務局）

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒812-8582
福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学大学院医学研究院
保健学部門内
事務局 丸山マサ美
TEL & FAX 092-642-6710（直通）
E-mail office@jsnh.jp

学会 HP <http://jsnh.jp>